



特定非営利活動法人
ホップ障害者地域生活支援センター



人の輪の中で
生きる日々を支えていく。
いままでもこれからも。

人の輪のなかに生きる。

“どう働くか”は“どう生きていくか”ということにつながっています。

私たちの仕事は「生きる日々」を支えることです。真剣に向き合うからこそ生まれる充足。
人を通して社会を見ること。そして、人を通してしか得られないものがHOPグループにはあります。



誰かの人生に
深く関わる
という充実。

石垣 星弥

●所属事業所／訪問介護事業所Origin
移送サービス バード



新たな
自分に気づく
面白さ。

杵渕 なつき

●所属事業所／相談支援事業所Origin



任されて
広がる、
自分の可能性。

高松 亮

●所属事業所／かなえ〜



やりたいこと、
もっと叶えて
あげたい。

長内 有佳子

●所属事業所／あてんど



一緒に
楽しみながら、
人の役に立ちたい。

西田 理紗

●所属事業所／あてんど



ありがとうの
言葉が、
日々の糧になる。

井村 尚美

●所属事業所／あてんど

訪問介護

介護を必要とする方の自宅を訪問し、日常生活をサポートする仕事です。食事・洗濯・入浴などの身体介護のほか、外出時の援助、生活上のアドバイスなども行います。

相談支援

障がい者が自立した生活を営むことができるよう、障がい福祉サービスなどの利用計画の作成や地域生活への移行や定着に向けた様々な相談支援を行います。

就労継続 支援A型

障がいや難病をもつ方のうち、一般企業への就職が困難な方と雇用契約を結びます。継続的な就労を行い、生産活動を通じて、知識と能力の向上に必要な訓練を行います。

就労継続 支援B型

障がいや難病をもつ方のうち、雇用契約を結んで働くのが困難な方のために、それぞれの年齢や体力に見合った軽作業などの就労訓練を行います。

生活介護

常に介護を必要とする方に対し、障がい者支援施設などへの通所により、入浴・排せつ・食事等の介護のほか、身体機能や生活能力の向上のために必要な援助を行います。

放課後等 デイサービス

主に6〜18歳までの、障がいのあるお子さんや発達に特性のあるお子さんの放課後等の活動を支援します。職員とのふれあいや体験活動を通して健やかな成長を促します。

使命を もって働く。

STAFF VOICE

～私の仕事、働くということ～

訪問介護（訪問介護事業所Origin）



明るくハキハキとした話ぶりが印象的で、勤続3年とは思えないほどの落ち着き。有償輸送の受講も受けて移送サービス業務にも従事する。

伝えることの大切さを強く実感。

介護の仕事に興味を持ったきっかけは、家族が認知症になったことでした。元々別な進路を考えていたのですが、介護で人を助けたいと思うようになりました。合同企業説明会ではじめて知ったのがHOPでした。ブースで説明を聞き、ぜひやってみたいと思いました。職場見学もして雰囲気の良いさを感じて、ここならと決意しました。

私は、HOPに入るまで介護の技術は何もありませんでしたが、すべて仕事から吸収していきましました。それができるのも、相談しやすい先輩や上司の存在と実践の機会をどんどん提供してくれる職場だからだと思います。おかげで自信がつきましたね。この仕事で、自分の性格も変わりました。以前は主張が苦手なタイプでしたが、利用者さんに関わるなかで、伝えるべきことはきちんと伝えなければならないという日々で磨かれ、コミュニケーションの大切さに改めて気づきました。すべて要望をきくことが本当にその人にとって良いことか、冷静に考えるようになりました。本当の目的は、利用者さん自身の生活の自立です。本人のためかどうか、しっかり考えることが大切です。今後は、後輩を指導する立場としても力を発揮したいです。



石垣 星弥 Seiya Ishigaki

[平成29年入社／勤続3年]
社会福祉士・精神保健福祉士

HOPとの出会い 高校3年の時に祖父が認知症になり、その介護をしていた祖母に負担がかかり、祖母が倒れたことがきっかけで介護の仕事に興味を持つ。企業説明会、職場見学を経て入社。

一日の主な動き

訪問先の利用者さんに合わせてスケジュールを組んでいるため、10時から15時まで、または、17時～19時、21時～など、柔軟に対応しています。日中は利用者さんの希望に合わせて外出の支援をします。イベントへ出かけたり、温泉に入ったりもします。夕方から訪問希望の利用者さんのお宅へ伺います。掃除や家事など、生活の身の回りの支援をしています。

貴重な経験を重ね、今の自分があります。

入社して感じる魅力は、とにかくいろいろな経験させてもらえることです。自分の中で大きかったのは、入社1年後に起こった東日本大震災。現地派遣スタッフとして支援活動に数回参加し、被災した方々と関わる中で日ごろから地域とつながりを持つことの重要性を実感しました。その後も全国の被災地支援に都度関わらせていただき、その経験をもとに今では町内会等へ被災地の声を届ける防災講座を担当するようになりました。

独自事業であるボランティアコーディネートを入社1年目で担当した時も、事業の仕組みから何から、竹田代表に聞きながら奔走しました。ボランティアさんとの面談など慣れないこともあり大変でしたが、社外の人たちとの出会いも多く、人とのつながりを強く感じます。また、道外視察の他ハワイやシンガポールへの海外研修も経験することができ、私はこのHOPで貴重な機会をもらったおかげで、成長できたと実感しています。

私は未経験で入社したので、社会人としても介護のプロとしても、たくさんの方を先輩や上司から教わりました。今でも様々な場面で助けてもらっていて、この環境はとても心強く日々感謝しています。今後はさらに知識や経験を身に付けて、利用者さんやHOPの発展、地域の方々に還元していきたいですね。



仕事を通じて培ったコミュニケーション能力を活かし、被災地支援などのHOPの活動を伝える講演や、災害対策の勉強会なども行う。



杵渕 なつき Natsuki Kinebuchi

[平成22年入社／勤続10年]
社会福祉士・介護福祉士

HOPとの出会い 福祉の仕事に興味があり、大学は福祉系へ進学。就職活動の中で「介護相談職」という求人が印象に残ったのがHOPだった。大学での実習等は全て高齢者施設だったので障がいのある方との関わりはほとんどなかったが、わからない領域に飛び込んでみようと思い入社。

相談支援（相談支援事業所Origin）



一日の主な動き

朝9時に出社して、事務所内で書類を作成したり、利用者さんのご自宅や通所先に伺っての面談や、支援者の皆さんと会議を行ったりします。相談支援の仕事以外にもボランティアのコーディネーター事業でボランティアさんとの面接や、ヘルパーとして直接支援を行うこともあります。

就労継続支援A型〔かなえ〜る〕

新たに与えられた環境で、
視野の広がりを感じています。

私は、主に施設利用者さんの送迎業務と事務を担当しています。この春、新たに開所した地域カフェ「Kokokara」のサービス管理責任者も担っています。はじめは申請書類作成などを担当していたのですが、重要な会議や打ち合わせに同席するようになり、責任者として抜擢されました。入社した時にはまさかカフェの担当になるとは思っていなかったですし、送迎や事務が中心でしたので、他に適任がいるのでは…なぜ自分が?と驚きが大きかったです。でも今は「この場所においてもらった」と思います。外食時にもメニュー内容や人の動きを観察するようになり、飲食店の知識を増やしていく中で意識が変わり、新鮮な気持ちで取り組んでいます。地域のお客さんが足を運びやすい店づくり、利用者さんが働きやすい環境づくりを考えています。

高松 亮

Ryo Takamatsu

サービス管理責任者
[平成17年入社／勤続15年]
社会福祉士・介護福祉士

HOPとの出会い 当時の景気や社会の動きをみて、景気に左右されず、将来社会に必要とされ残っていく仕事は何かを見極め、社会に求められる仕事をしたいと考え、大学進学から福祉を学び、卒業してすぐにHOPへ入社。



生活介護〔あてんど〕

助けを求められ、
応えることの責任感と充足感。

私は、来所する利用者さんの生活介護を担当しています。「心のバリアフリー」に力を入れ、障がい児と一緒にいける場所を調べて出かけ、楽しめる場所がたくさんあると知ってもらえるよう取り組んでいます。この仕事をして思うことは、助けを求められることの責任とその想いに応えることの大切さが仕事の原動力になっているということ。「たのしかった、ありがとう」その言葉で続けていけます。職場も、先輩後輩関係なく相談しあえる雰囲気です。

この仕事に関わって10年以上。実感するのは、楽しく過ごしたい、安全に暮らしたい、という想いはみんな共通だということ。これからも「今日も来てよかった」と利用者さんに言ってもらえるよう、日々楽しく明るくやっていきたいですし、そんな生活介護のあり方を目指していきたいです。

西田 理紗

Risa Nishida

サービス管理責任者
[平成21年入社／勤続11年]
介護福祉士

HOPとの出会い 高校時代から障がい児介護の仕事に興味をもち、助けを必要とする子どもを支援する仕事に関わりたかったが、地元では高卒での受け入れ企業がなく、働きながら実績を積み重ねることを求めてHOPへ。

利用者さんの仕事の成長に
手応えを感じます。

就労支援では、利用者さんに社会でのマナーを教えたり、自立のための体調管理、衛生面で気をつけることを伝えています。教えたことが正しいのか自信がなくなることもありますが、その後、仕事ぶりで成長を感じられた時には手応えを感じます。委託の仕事で大きな公園の草取りをした時は、最初は気持ちが前向きでなかったメンバーも、全員が一丸となって終わらせることができました。皆清々しい顔をしていて、とても嬉しい気持ちになりました。利用者さんのやりたいことを少しでも叶えてあげられるよう、工夫しながら通所しやすい環境づくりを心がけています。

職場の雰囲気はとても良好で、みんな明るく笑顔が絶えず、楽しくて働きやすいと感じています。

長内 有佳子

Yukako Osanai

[平成24年入社／勤続7年]
訪問介護員2級・ガイドヘルパー(全身性・同行支援)・中学校教諭2種免許状

HOPとの出会い 以前働いていた社会奉仕団体の活動を通してHOPを知っていたが、転職活動で訪れた合同企業説明会にHOPが参加していたことで縁を感じ入社を希望、現在に至る。



就労継続支援B型〔あてんど〕

子ども達の成長をみて
うれしく思います。

主に子どもの送迎と生活介護をしています。ケアを通じて通所ならではの経験をさせてあげたいと思い、冬ならチューブ滑りなど季節に合わせたお外遊びや、調理実習など、家庭で経験させることが難しいことに力を入れています。通所しているうちに文字を書けるようになったり、子ども達が日々成長していることは見ていてうれしく思います。子ども達はスキ・キライがはっきりしていますが、しっかり向き合って根気強く説明するように心がけています。

職場は人間関係が良く、急な休みでも“お互い様”と思ってカバーし合うなど助け合える関係が心地よいです。事前の希望で長期休暇をとることもできるので、海外旅行もできました。今後は医療ケアも学んで必要としている子ども達に応えたいです。

井村 尚美

Naomi Imura

[平成25年入社／勤続6年]
介護福祉士

HOPとの出会い 高齢者施設等で長く働いていたが、福祉の分野で幅広い経験を積みたいと思いHOPに入社。幼なじみに障がいがあり養護学校を訪れた経験から放課後等デイサービスに興味を持った。



放課後等デイサービス〔あてんど〕



人の輪をつなげる。 世界へ、災害地域へ。

海外福祉研修

〔施設交流〕

福祉の環境についてスタッフの見聞を広げるため、海外の福祉施設を視察・交流する機会を積極的にもうけています。さまざまな海外研修・交流を毎年計画的に行っており、貴重な経験を積むことができます。



▲カザフスタン身体障害者連盟との交流



▲カザフスタン福祉交流



▲マレーシア交通機関視察



▲ポルトガル 障がい施設との交流



▲ドイツ ハダマ精神病院 優生思想視察



▲ポーランド アウシュビッツ 優生思想視察

参加者の声

● ポルトガルTRANSED国際会議に参加して

日本との歴史的関係が深い国ポルトガルはヨーロッパの西端に位置しており、乗り継ぎでしか渡航できないので、現地は他の日本人とほとんどすれ違うことなく遠くに来たことを強く実感させられました。ポルトガルは古い歴史的建造物が多いので古風なイメージを保ってのバリアフリー化に苦労している様子でした。会議は各種展示会・懇親会で構成されており、福祉関連の情報が溢れており、多くの共通点は万国共通に大切なことであると再認識でき、又日本には無い優れたアイデアに触れた際は福祉の奥深さを教えられました。

● カザフスタン身体障害者連盟との交流に参加して

カザフスタンの障がい者団体との福祉交流として、お互いの国における障害福祉に対する現状について意見を交換し、福祉用具、技術の伝達を目的として行われ、2009年から4回の訪問を実施、その間 JICA 等を通じてカザフスタンの障がい者団体も来日されるなどお互いの情報交換を積み重ねています。施設訪問から医療技術研修まで訪問を重ねるごとに内容・役割も進化しています。

● ロンドン海外福祉施設等の視察研修

観光地へのアクセスや公共交通のバリアフリー化に関して視察研修を目的に訪問しました。ロンドンでは、事前の予約がなくても、道端でタクシーを止め車椅子のまま乗ることができ、不便なく移動することができます。又、公共交通では日本と同じように障がい者割引等の措置があり、制度化されていました。以前の研修で訪れた国ではそもそも車椅子のまま車に乗るという概念がなく、福祉タクシーを待っているとピックアップのトラックが来るということもあったので、国の福祉政策や道路状況のちがいを比較する機会となりました。帰国後は研修で得たことを振り返り、自分たちができる支援について検討することもできました。

社会貢献・救援活動

被災地における障がい者、高齢者への支援も、私たちの重要な使命のひとつです。被災地で直面する課題に取り組むために、業務としてスタッフを現地へ派遣しています。スタッフの中には、災害救援技術や救命活動などの研修を受けている者もいます。

〔派遣実績〕

●1995年2～6月	阪神・淡路大震災	福祉車両派遣等
●2004年10月	兵庫県豊岡市 台風23号	路上の倒木処理、物資配布等
●2004年11月	新潟中越沖地震	瓦礫除去、福祉施設支援等
●2011年3月～ 2012年3月	東日本大震災	障がい者移送支援、泥出し、 物資配布、瓦礫除去等
●2013年10～11月	伊豆大島 台風26号	倒木撤去、土嚢積み、物資配布、 家財分類等
●2014年8月	広島市土砂災害	土砂除去等
●2016年4～10月	熊本地震	土嚢積み、瓦礫除去、家財分別、 応急修理等
●2016年9月	北海道南富良野町 台風10号	通院送迎、泥出し等
●2017年7月	九州北部豪雨	貴重品搬出、流木の取出し等
●2018年9～11月	北海道胆振東部地震	臨時児童デイ、家財・貴重品搬出等
●2019年10～12月	長野県長野市 台風19号	リンゴ畑の土砂・廃棄物撤去
●2019年12月	宮城県丸森町 台風19号	倒木処理・瓦礫撤去等



資格取得

未経験からでも、HOPグループで実務経験を積むことで、資格取得を目指すことができます。HOPグループでは、福祉のプロとしてキャリアを積むことを推し進めており、取得に関する援助も行っています。

初級資格

介護職員初任者研修

「旧称ホームヘルパー2級」と同等の資格で介護職員のスタートライン研修です。

福祉輸送 STS (Special Transport Service)

公共交通機関を利用することが困難な利用者に対してNPO法人等が通院・通所・外出を目的に有償で行う移送サービスです。この福祉有償運送を行うために必要な認定講習を当事業所負担で受講できます。受講により有償運送や民間救急搬送などの移送サービス業務の従事が可能になります。

重度訪問介護従事者研修

重度の障がいをもつ方の訪問介護に必要な認定講習を当事業所負担で受講できます。受講により重度障がい者の訪問介護業務の従事が可能になります。昨年度の実績数は24名です。

上級資格

介護職員等喀痰等吸引研修

介護業務従事者も当該研修後、一定の条件の下で、特定行為として喀痰吸引等を実施することができるようになります。昨年度の実績数は4名です。

相談支援専門員

障がい者等の相談に応じ、助言や連絡調整等の必要な支援を行うほか、サービス利用計画を作成します。相談支援事業所は、相談支援専門員を置く必要があります。5年以上の実務経験が必要です。

社会福祉主事

社会福祉六法の施行に関する都道府県知事または市町村長の事務執行を補助する専門職員です。高校卒業後及び就業2年以上の職員を対象に当事業所負担にて通信教育による取得が可能です。

国家資格

介護福祉士

専門的な知識や技術を持ち、身体上・精神上の障がいがあるために日常生活を営むのに支障がある方に対して、入浴・排泄・食事などを含む介護や、介護に関する相談・助言を行います。

社会福祉士

専門的な知識や技術を持ち、身体上・精神上の障がいがあるために日常生活を営むのに支障がある方の福祉に関する相談に応じて、助言・指導・援助等を行います。

精神保健福祉士

精神科病院などの医療機関や精神障がい者の社会復帰を支援する施設において、社会復帰に関する相談に応じたり、日常生活に適應するための訓練や援助を行います。

【保育士資格を取得されている方へ】 HOPグループは「札幌市保育士修学資金貸付事業」の対象となっています。一定条件を満たすと貸付金の返還が免除となります。

人の輪をともにつなげよう。

代表挨拶

一人ひとりの“あたり前のこと”を大切に、
「誰かの普通」を支える。
それが私たちの使命です。

誰のために、何のために働くか

いま、HOPグループとして介護分野において、様々な組織を運営していますが、その原型は、1988年に設立した小規模作業所、ホップです。

私自身、先天性の疾病により、車いすを使用しています。寿命は20歳くらいと言われていたため、余命を意識しながら生活し「何をして」生きるかが重要と考えていました。ある期間、ソフト開発エンジニアとして務めたこともありましたが、仕事を続けるうえで突き当たる課題は多く、結果、自分たちがよりよく働くための環境を、障がいのある仲間たちとつくったのです。

私たちの活動の柱とは

自分たちが仕事をする過程で発生した諸々の課題を解決するためにサービスを創り、実践したことが、多くの障がい者や高齢者の役に立ちました。関連する社会福祉法人が運営する施設も含め、移送サービス、障がい児の外出支援、障がい者のグループホームなどを提供しています。つまり自分たちの私的ニーズに応じて、公的サービスを生み出したのです。採算を考えていたら、ほとんどの事業は存在しなかったでしょう。「顕在化していない・期待されていないことに注目して、価値を見出す」が私たちの活動の柱です。

志を共にしたい

介護は、従事者にとって大変な負荷がかかる仕事と言われています。多大な気力・体力を使う仕事です。だからこそ職場の環境がよくなければ、その施設でサービスを受ける利用者の生活を、ほんとうの意味でサポートすることはできません。

私は、自分の経験やさまざまな交流で得たことから、障がいがあっても働きやすい環境づくりの大切さを、いつも考え、実践しています。地域社会にとって必要な施設を開設し、これに反応するかのように、スタッフも増えました。現在、異業種からも、新卒未経験者でも、介護の担い手として仲間になってくれたスタッフたちが現場で活躍しています。彼らのモチベーションは非常に高く、「どうしたら、利用者の方々にもっと楽しく日々を過ごしてもらえるか」つまり良い人生をすごしてもらえるか、という意識を持って日々仕事に向き合っています。

どんな人も、誰かの支えがなくては、ひとりでは生きていけませんし、障がい者の介護は、担い手なしには成り立ちません。「誰かの普通」を支えること、例えばそれは、朝起きて顔を洗い、服を着て外出すること。仕事を終えて家に帰り、食事をしてお風呂に入る。誰にも気兼ねなくトイレに行く。そのような普通の生活を支えたいという思いです。その思いを理解し、高い使命感を共有しながら、人の輪のなかで共に働く仲間がもっと増えてほしいと願っています。



特定非営利活動法人
ホップ障害者地域生活支援センター

代表理事 **竹田 保** Tamotsu Takeda

Profile

1960年木古内町生まれ。先天性疾病により、車いすを利用する。札幌市立山の手養護学校高等部卒業。1988年に小規模作業所ホップ設立(2003年に特定非営利活動法人ホップ障害者地域生活支援センターとして法人格取得)。障がい者支援施設などを運営する「社会福祉法人HOP」並びに、福祉用具販売等を行う「株式会社北海道オフィスプロダクツ」の代表でもある。

沿革

地域のために、障がい者(児)のために、施設・サービスを開所してきました。

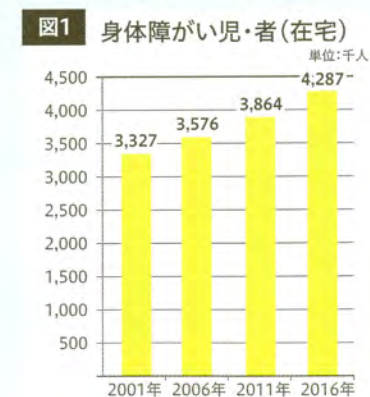
- 1987年 4月 コンピュータープログラマー養成講座の開催。重度身体障がい者の就労推進を図るためにボランティア活動の一貫として、コンピュータープログラマー養成講座を開催しコンピューター技術者を養成
- 1988年 2月 札幌市豊平区月寒西1条10丁目2-5に小規模作業所ホップ設立。※業務内容～コンピューターソフト開発・データ処理・ワープロ浄書等
- 1991年 4月 コンピューター会社との合併により、障がい者多数雇用の事業所(障がい者10名雇用)をモデル的に設立し検討をすすめるなど、障がい者の雇用拡大のモデル事業への取り組み(平成3～4年度)
- 1993年 6月 障がい児日常生活用具取扱いについて北海道と委託契約。以後、障がい者(児)日常生活用具取扱い・障がい者(児)補装具取扱い・障がい者(児)自助具取扱いについても、道・札幌市・道内各市町村と順次、委託契約。
- 1994年 7月 株式会社北海道オフィスプロダクツを設立し、福祉用具販売部門を小規模作業所から分離
- 1997年 10月 一般向けに、会員制移送サービス「バード」を開始
- 1998年 6月 ホップ第2作業所を豊平区美園7条5丁目に開所
- 7月 社会福祉法人札幌協働福祉会と共同でグループホーム「コロナード707」をあいの里教育大駅前に開設
- 1999年 5月 グループホーム「あいの里46」開所
- 10月 ホップ障害者地域生活支援センター、あてんどを設立
- 2002年 4月 札幌市障がい者(児)ホームヘルプサービス受託

- 2003年 2月 法人格取得 特定非営利活動法人ホップ障害者地域生活支援センター
- 11月 社会福祉法人HOP 設立
- 2004年 4月 身体障がい者小規模通所授産施設ホップ 開設
- 2005年 12月 身体障がい者福祉ホーム 自立ホーム24 開設(社会福祉法人HOP)
- 2006年 1月 ベーカリー愛・藍とケータリング愛・藍をあっぷ美香保(就労継続支援B型)へ移行
- 身体障がい者小規模通所授産施設ホップをホップ(就労継続支援B型)へ移行
- 共同生活援助事業 ゆうあい24 開設
- 2008年 8月 障がい者支援施設あっぷ 開設(社会福祉法人HOP)
- 2009年 9月 札幌市北区新川地区に多機能型事業所「エンデバー」開設(社会福祉法人HOP)
- 2014年 5月 障がい者支援施設「あっぷ」の下に「cafe ぶちりーべ」開設(社会福祉法人HOP)
- 2015年 11月 発寒中央サポートセンター「りんくす」開設(社会福祉法人HOP)
- 2016年 9月 国庫補助事業で障がい者支援施設Soraを開設(社会福祉法人HOP)
- 2017年 5月 本部内にホップ福祉問題研究所を開設
- 2018年 9月 北海道胆振東部地震で厚真町にボランティア派遣

「COLUMN」 求められる福祉分野の人材

内閣府の令和元年の障がい者白書によると、障がいを持つ方の概数は、身体障がい者(児)436万人、知的障がい者(児)108万2千人、精神障がい者419万3千人となっています。(下図1～3参照)。一方で、福祉分野の資格登録者数は、2019年3月現在で、社会福祉士約23万3千人、介護福祉士は約162万4千人(国家試験・養成施設卒業者合計)、精神保健福祉士が約8万5千人と、専門資格を有する人材が大幅に不足しています。

□年齢階層別障がい者数の推移



注:四捨五入で人数を出しているため、合計が一致しない場合がある。
資料:厚生労働省「身体障がい児・者実態調査」(～2006年)、
厚生労働省「生活のしづらさなどに関する調査」(2011・2016年)



注:四捨五入で人数を出しているため、合計が一致しない場合がある。
資料:厚生労働省「知的障がい児(者)基礎調査」(～2005年)、
厚生労働省「生活のしづらさなどに関する調査」(2011・2016年)



注:2011年の調査では宮城県の一部と福島県を除いている。
注2:四捨五入で人数を出しているため、合計が一致しない場合がある。
資料:厚生労働省「患者調査」(平成2017年)より
厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部で作成

□福祉専門職の資格登録者(2019年3月末)

社会福祉士	介護福祉士	精神保健福祉士
233,517人	1,624,829人	85,122人

注:資格登録者の数は、公益財団法人社会福祉振興・試験センター調べ
資料:厚生労働省

HOPグループ

「働く」「暮らす」「活動する」を
総合的に支えています。

■ NPO ■ 社会福祉法人

ホップ障害者地域生活支援センター Origin / バード / かなえ〜る

〒065-0014
札幌市東区北14条東14丁目2-5 光星ビル3階 他1カ所
TEL:011-748-6220 FAX:011-748-6221



ホップ障害者地域生活支援センター あてんど

〒065-0020
札幌市東区北20条東1丁目5-1 大西ビル1階
TEL:011-733-2002 FAX:011-733-1379



障がい者支援施設 あっぷ

〒063-0865
札幌市西区八軒5条東1丁目6-1
TEL:011-613-3636 FAX:011-613-3637
Email:aeg31890@tree.odn.ne.jp



自立ホーム24

〒063-0804
札幌市西区二十四軒4条6丁目3-2
TEL:011-632-7077 FAX:011-632-7066
Email:hop_jirituhome24@marine.odn.ne.jp



グループホームゆうあい24

〒063-0804
札幌市西区二十四軒4条6丁目3-4
お問合わせ窓口(法人本部) TEL:011-632-7077



障がい者支援施設ホップ

〒063-0804
札幌市西区二十四軒4条6丁目3-4
TEL:011-615-9024 FAX:011-612-2250
Email:hopp24@hello.odn.ne.jp



グループホームパブリック47

〒063-0804
札幌市西区二十四軒4条4丁目4-1
お問合わせ窓口(法人本部) TEL:011-632-7077



障がい福祉サービス Sora

〒063-0804
札幌市西区二十四軒4条6丁目5番3号
TEL:011-632-5700 FAX:011-632-6700
Email:sora@hop.or.jp



発寒中央サポートセンター りんくす

〒063-0825
札幌市西区発寒5条5丁目9番8号
TEL:011-676-6751 FAX:011-676-6752
Email:links@hop.or.jp



豊平MAX

〒062-0008
札幌市豊平区美園8条1丁目3-23
TEL:011-842-9320 FAX:011-842-9330
Email:hopp_toyohira@max.odn.ne.jp



障がい者支援施設 エンデバー

〒001-0924
札幌市北区新川4条17丁目1-32
TEL:011-762-7701 FAX:011-762-7702
Email:aih30310@pop27.odn.ne.jp



Cafe ぷちりーべ

〒065-0020
札幌市東区北20条東1丁目3-7
TEL:011-752-8711 FAX:011-702-2311
Email:petit-liebe@kind.ocn.ne.jp



グループホームにーまる

〒065-0020
札幌市東区北20条東1丁目1-3
お問合わせ窓口(法人本部) TEL:011-632-7077



特定非営利活動法人 ホップ障害者地域生活支援センター

〒065-0014 札幌市東区北14条東14丁目2-5 光星ビル3階
TEL:011-748-6220 FAX:011-748-6221
Email:aas49970@par.odn.ne.jp URL:<http://www.npo-hop.org>

